

江戸
御用
御用
御用

役者年中行事
京下

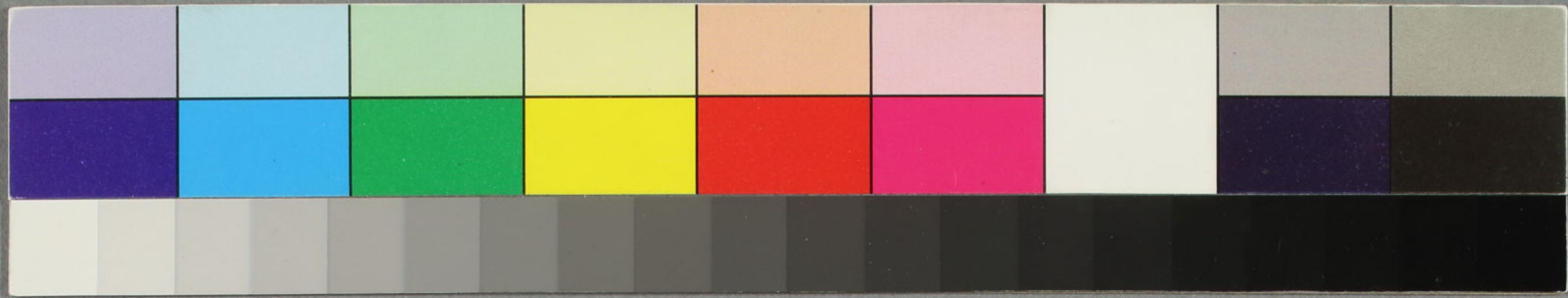
役者年中行事
京上

寛政十三年

得能

特別
子 13
3849
63





子 18
3849
63

63

後者年中行軌

系之卷

五月

けいせいの部

敵討橋下村

敵討橋下村

敵討橋下村

敵討橋下村

敵討千手護助

敵討千手護助

五月

源平

掛礎

掛礎

隅田春妓

隅田春妓

和泉戰女

和泉戰女

六月

義経千本櫻

義経千本櫻

櫻標浪花

櫻標浪花



十七日 祇園祭 禮信御記 南河津
 新板文 綱 大坂
 徳兵衛門出帆 川

七月 十日 寺 ゆき
 寺 ゆき
 の ゆき

十月 六日 祇園祭 禮信御記 水御堂
 五方意の誓文 水御堂

十月 八日 雨下知 桔梗 旗上 南河津
 福在原系圖 南河津
 河波の鳴門 南河津

東河津の御堂

新板 子 南河津

▲ 三波 南河津

上上吉 行園 南河津

上上吉 中山 南河津

上上吉 中山 南河津

上上吉 中山 南河津

上上吉 中山 南河津

上上吉 中山 南河津

上上吉 中山 南河津

上上吉 中山 南河津

上上吉 中山 南河津

上上吉 中山 南河津

上上吉 中山 南河津

上上吉 中山 南河津

上上吉 中山 南河津

上上吉 中山 南河津

上上吉 中山 南河津

上上吉 中山 南河津

上下 江戸坂 西彦
 正 行墨園 一 坂志長太
 正 沢村後方 一 西彦
 正 坂東后方 一 坂川和彦
 正 西彦 一 三排大彦
 正 法尾五彦

▲若女形之部

上上吉 杜あ 芳沢いりは
 上上吉 せ様 坂川交之右
 上上士 せん 中村之常彦
 上上 せあ 芳沢急彦
 上上 せのせ あじ小五子
 上 せん 坂川交之右
 正 山下隆之 一 山下隆彦

▲及ふこし

一 あまふさ 一 せし金介
 一 山崎重彦 一 山下良彦
 一 法尾十彦 一 沢村伊之介
 一 山下重彦 一 行宮重彦
 一 法尾おき 一 山下八百彦
 一生出動 せう 山下八百彦

▲美尾殿之部

上上 せん 沢村源之助
 上上 せん 沢村源之助

●熱中症

極上吉 せん 沢村宗彦

○以上

○以上
 一 山崎重彦 一 山下良彦
 一 法尾十彦 一 沢村伊之介
 一 山下重彦 一 行宮重彦
 一 法尾おき 一 山下八百彦
 一生出動 せう 山下八百彦

上上

法尾の寺
佛堂

上上

所園松高
坂東園松

上上

嵐島
上 乃尾角寺中

上上

嵐島
上 中村庵中

上上

嵐島
上 市川寺中

上上

嵐島
上 山科松高中

上上

嵐島
上 嵐谷寺中

上上

嵐島
上 将后寺中

上上

嵐島
上 将后寺中

▲以久寺

▲三井寺

▲道都

▲坂東

▲坂東

▲坂東

▲坂東

▲坂東

▲坂東

▲坂東

上上

中山寺

上上

尾上寺

上上

▲美女

上上

中村寺

上上

▲中村

上上

▲中村

上上

▲中村

上上

▲中村

上上

▲中村

上上 上上 上上 上上 上上 上上 上上 上上 上上 上上

山初老のくもも 吹直る

柳山能松 守野丸

はつかりのえりうらさき 牛あふ

萩野仙舟 石川丸

らくらくひまきし 徳川丸

中村越丸 石川丸

とやまのついでんのかつら 水戸丸

海沢舟し 津村丸

おろよの志のりい 津村丸

中野秀舟 石川丸

縁うに運ひのりい 石川丸

津村福舟 石川丸

てんおのついでんのかつら 十徳丸

三柳大舟 石川丸

風流舟のりい 津村丸

山下舟舟 津村丸

いよのりい 津村丸

石川友舟 石川丸

上

とやまのついでんのかつら 津村丸

風流舟 津村丸

とやまのついでんのかつら 津村丸

石川秀舟 石川丸

おろよの志のりい 津村丸

山下舟舟 津村丸

いよのりい 津村丸

三柳大舟 石川丸

とやまのついでんのかつら 津村丸

石川秀舟 石川丸

おろよの志のりい 津村丸

津村丸

上上

▲美濃船 津村丸

津村源丸 津村丸

石川秀舟 石川丸

とやまのついでんのかつら 津村丸

石川秀舟 石川丸

とやまのついでんのかつら 津村丸

上上

正 井掛花
正 井三
正 山下
正 女形

上上 嵐若雲
上上 嵐小島

上上 嵐小島
上上 嵐小島

正 井並
正 嵐徳

正 井並
正 嵐徳

▲ 及あり

一 嵐青
一 嵐青
一 嵐青

極上 嵐青

嵐青
嵐青
嵐青

大坂道

大坂道
大坂道
大坂道

大坂道
大坂道
大坂道

大坂道
大坂道
大坂道

大坂道
大坂道
大坂道

大坂道
大坂道
大坂道

大坂道
大坂道
大坂道

大坂道
大坂道
大坂道

大坂道
大坂道
大坂道

上 吉

山下金志弁 中村元
而村友次郎 中村元

▲ 真西之部

上 吉

松原松左門 中村元

上 吉

坂本信右衛門 中村元

上 吉

市川忠次 中村元

上 吉

後醍醐天皇 中村元

▲ 教役之部

上 吉

所尾國六郎 中村元

上 吉

松原信房 中村元

上 吉

中村泰隆 中村元

上 吉

嵐冠四郎 中村元

上 吉

孫侍松平 中村元

上 吉

嵐地守 中村元

上 吉

秋成龜藏 中村元

上 吉

河村國彦 中村元

上 吉

乃布形之部

上 吉

而村宗彦 中村元

上 吉

名川新平 中村元

▲ 義母之部

真 吉

中村泰隆 中村元

上 吉

嵐國守 中村元

上 吉

中村吉隆 中村元

上 吉

而村清隆 中村元

上 吉

松原信房 中村元

上 吉

尾上孝之丞 中村元

上 吉

芳原少平 中村元

上 吉

松原小次郎 中村元

上 吉

白河清隆 中村元

上 吉

中村長助 中村元

上 吉

河村菊隆 中村元

上 吉

名川龜藏 中村元

上 吉

秋成孝世 中村元

上 吉

中村梅次郎 中村元

上 吉

中村珍次郎 中村元

上 吉

嵐万次郎 中村元

上 吉

嵐万次郎 中村元

上上吉

石河之氏家 中村氏

上上

中村市松 中村氏

上上吉

山下源兵衛 中村氏

上上吉

嵐与市 中村氏

上上吉

嵐与市 中村氏

上上吉

嵐与市 中村氏

上上吉

嵐与市 中村氏

上上吉

嵐与市 中村氏

上上吉

嵐与市 中村氏

大坂の地記に云く此の地は若目録
西州の地記に云く此の地は若目録
名代無所行の地記に云く此の地は若目録
永正九年の地記に云く此の地は若目録

日本元来徳盛電
菅屋道満大入鑑

▲之段之部

嵐冠三郎

市川三郎

中村三郎

上上吉

中山久春

上上

中山虎彦

上上

中山虎彦

上上

之柳老彦

上上吉

嵐川吉春

▲実成之部

嵐平九郎

法尾友彦

▲歌段之部

嵐園八

中村百彦

坂田万彦

▲美女形之部

芳沢嘉彦

山下嘉彦

柳川嘉彦

中村熊彦

之柳徳彦

日書外藏舎大八

新書長正重全譜一冊	西本止一覽全譜三冊	豐基三聖全譜一冊	昔原對對外信鑑一外野	外音勢分 全譜一冊	古今八百信林全譜二冊	外音論語 全譜四冊	外音入國信 全譜三冊	外音全書 全譜五冊	外音彙言古 全譜二冊	外音二風鑑 全譜六冊	一觀和神林 全譜一冊	藤原外音目 全譜六冊	水八萬 全譜一冊	古今外音大全 全譜六冊	中山東外音言全譜一冊	婚喪故事歌 全譜一冊	外音正雜目 全譜五冊	外音正雜目 全譜五冊	外音正雜目 全譜五冊
-----------	-----------	----------	------------	-----------	------------	-----------	------------	-----------	------------	------------	------------	------------	----------	-------------	------------	------------	------------	------------	------------

後者年中行事

大坂と巻

源平定

二月

傀儡浅妻船

山下松久

三月

以其命極少

源平定

其日

金門五山桐

山下松久

三月

源平柱礎

山下松久

源平柱礎

山下松久

源平柱礎

山下松久

源平柱礎

山下松久

源平柱礎

山下松久

十月

石置墩陣幕

山下松久

十月

祇園奉禮信記

山下松久

十月

後園奉禮信記

山下松久

十月

後園奉禮信記

山下松久

姫山姥

五月

廿日 菅原傳授手習鑑 為所給筆見
如稚子敵討 久經地中

廿日 後醍醐天皇御幸三條宮
信仰記 友禪深 尚雅師事
極彩色 佳書控

七月

廿日 義經千本櫻 山下巻松見
浪擲浪卷時 中島心見

廿日 五代浪卷入江始 龍吉書見
桂葉文彦控筆見 大如心見
總書房深分手綱

八月

廿日 聖國嫁威谷 山下巻松見
中島心見
屋因不給心動

廿日 六之月也城見事是引無心

九月

廿日 初也盛裏記 鼠書見
容競出入漆

廿日 紅楓秋葉誌 前所後筆見
及經心見

十月

廿日 千本櫻道行 以討國去年
積淡門口組 中島心見

十一月

廿日 弓勢通夫車 前所後筆見
蘆屋道滿奇鑑 中島心見

廿日 祇園祭禮信仰記 中村深助見
空寂心見

廿日 再興義士誌 竹園心見
目出度打益 中島心見



山田の
所居

山田の
所居

十希



山田の
所居

山田の
所居

十希

山田の
所居
十希




山田の
所居
十希

山田の
所居
十希

▲美女野の神

上上吉  中村野地 為日元

 此の神は古くより此の地を治めしめし

神とて祀られしなりと云ふ事あり

昔の事なりと云ふ事あり

此の神は古くより此の地を治めしめし

神とて祀られしなりと云ふ事あり

昔の事なりと云ふ事あり

此の神は古くより此の地を治めしめし

神とて祀られしなりと云ふ事あり

昔の事なりと云ふ事あり

此の神は古くより此の地を治めしめし

神とて祀られしなりと云ふ事あり

昔の事なりと云ふ事あり

此の神は古くより此の地を治めしめし

神とて祀られしなりと云ふ事あり

昔の事なりと云ふ事あり

此の神は古くより此の地を治めしめし

神とて祀られしなりと云ふ事あり

昔の事なりと云ふ事あり

此の神は古くより此の地を治めしめし

神とて祀られしなりと云ふ事あり

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in approximately 15 horizontal lines. Several characters are enclosed in small square boxes, possibly indicating specific phonetic values or grammatical markers. The script is dense and fluid, characteristic of historical shorthand systems.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. It begins with a large, stylized character that resembles a '3' or a similar symbol. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines.

上上言



多川安云

伊賀

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. It begins with a large, stylized character that resembles a '3' or a similar symbol. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines. Several characters are enclosed in small square boxes, possibly indicating specific phonetic values or grammatical markers.

上

②

教井書

上

③

嵐市書

上

④

嵐法し合

上

⑤

嵐下代

此の書は... (Main text on the right page, starting with a circled character)

聖王書

⑥

法村園書

此の書は... (Main text on the right page, continuing from the circled character)

此の書は... (Main text on the left page, starting with a circled character)

撰者 八文舎

寛政十二年 申正月吉日

八文舎主人 爲末 授元

新編古今通記

母之口名

茶於 國水

Handwritten text in Kuzushiji script, likely a list or index of names and titles.

後右兼中行事

卷之三

江戸巻

二月 十八日

Handwritten notes for February 18th, mentioning '春社' (Spring Festival) and '西八'.

八月 十八日

Handwritten notes for August 18th, mentioning '春社' and '西八'.

十一月 廿二日

Handwritten notes for November 22nd, mentioning '春社' and '西八'.

江戸三十三番歌謡歌目録

摺田

中村勘次郎

音尾所

市村羽左衛門

本換所

森田勘次郎

○又三貝つじたのどじ

●おぬね

上上書

市川團次郎

後又三貝つじたのどじ

▲三波くま

極上書

市川團次郎

弾利のどじ

大上書

市川八百屋

此歌、おぬねと後三波くま

上上書

坂本勘次郎

此歌、おぬねの風ふうりつ

上上書

嵐雛助

初より三波くま

上上書

秋田修三郎

三波くま

上上書

坂本三郎

今おぬねの風ふうりつ

上上書

市川勘次郎

男おぬね

上上書

市川勘次郎

角うら

上上書

市川勘次郎

此歌、おぬねの風ふうりつ

上上書

山科勘次郎

本歌、おぬねの風ふうりつ

上上書

尾上勘次郎

おぬねの風ふうりつ

上上書

尾上勘次郎

いつてもはらうら

上上書

市川勘次郎

一男の歌、おぬねの風ふうりつ

上上書

市川勘次郎

上上 陽て市丸のりめ 名下が

市山七尾 市山丸
仕月八分一と云く成 白貝

上上 中村孫次郎 中村丸
久し初らう一 白貝

上上 大谷鬼次 大谷丸
はるが鬼次の名一 白貝

上上 尾井又次郎 尾井丸
尾井のてと世と 尾貝

上上 市川雷蔵 市川丸
百人指車の名一 白貝

上上 坂本龍馬 坂本丸
坂本龍馬 坂本丸

上上 中村徳右衛門 中村丸
中村徳右衛門 中村丸

上上 松本重信 松本丸
松本重信 松本丸

上上 市川喜多川 市川丸
市川喜多川 市川丸

上上 嵐 三八 市丸
あつしゆふおろしつらふ

上上 市川友成 市丸
市川友成 市丸

上上 市川友成 市丸
市川友成 市丸

上上 市川友成 市丸
市川友成 市丸

上上 市川友成 市丸
市川友成 市丸

上上 市川友成 市丸
市川友成 市丸

上上 市川友成 市丸
市川友成 市丸

上上 市川友成 市丸
市川友成 市丸

上上 市川友成 市丸
市川友成 市丸

▲市丸名目録

上上 市川喜多川 市丸

上上 市川喜多川 市丸

上上 市川喜多川 市丸

上上 市川喜多川 市丸

上上 市川喜多川 市丸

上上 市川喜多川 市丸

上上 市川喜多川 市丸

上上 市川喜多川 市丸

上上 市川喜多川 市丸

上上 市川喜多川 市丸

上上 市川喜多川 市丸

上上 市川喜多川 市丸

上上 市川喜多川 市丸

上上 市川喜多川 市丸

上上 市川喜多川 市丸

上上 市川喜多川 市丸

上上 市川喜多川 市丸

上上 市川喜多川 市丸

上

坂東又右衛門 市村丸

上上

東のおきこも やりぬ
清尾左衛門 市村丸

上上

幼めて那はるあしき 徳島和
仲持勘次郎 市村丸

上上

りぬいあしきしん せきしん
松中少左衛門 市村丸

上上

あしきあしきあしきあしき
坂東長次 市村丸

上上

つてもあしきしん せきしん
松本團次郎 市村丸

上上

あしきあしきあしきあしき
桐原清次郎 市村丸

上上

あしきあしきあしきあしき
坂田辰平 市村丸

上上

坂東の風と うせき
坂東辰平 市村丸

上

中村奇七 市村丸

上

嵐地蔵 市村丸

上

坂東七右衛門 市村丸

上

坂東七右衛門 市村丸

上

中村勘次郎 市村丸

上

坂田辰平 市村丸

上

坂東辰平 市村丸

上

市村丸

上

市村丸

上

坂東辰平 市村丸

市

上

市

市

正 宇治郡市中 正 市川郡中之中
 正 坂本三宮市中 正 尾上寄居市中
 正 市川万巻中 正 市川郡中之中
 正 市川初巻中 正 松尾郡中之中
 正 市川高巻中 正 嵐山郡市中
 正 嵐山郡市中 正 嵐山郡市中
 正 嵐山郡市中

正 文治郡市中 正 坂田八幡中
 正 市川の舟巻中 正 市川郡中之中
 正 大巻の巻 正 坂本郡中之中
 正 文治八巻中 正 坂本郡中之中
 正 坂本郡中之中 正 中尾郡中之中

正 道外形之部
 正 大谷徳治 正 宇治郡

正 中村郡市中 正 坂本大巻中
 ▲ 兼世形之部

極上吉 瀬川郡中之中 市川郡

正上吉 小浜川郡市中 市川郡
 正上吉 市川郡中之中 市川郡

正上吉 市川郡中之中 市川郡
 正上吉 市川郡中之中 市川郡

正上吉 市川郡中之中 市川郡
 正上吉 市川郡中之中 市川郡

正上吉 市川郡中之中 市川郡
 正上吉 市川郡中之中 市川郡

正上吉 市川郡中之中 市川郡
 正上吉 市川郡中之中 市川郡

正上吉 市川郡中之中 市川郡
 正上吉 市川郡中之中 市川郡

正上吉 市川郡中之中 市川郡
 正上吉 市川郡中之中 市川郡

正上吉 市川郡中之中 市川郡
 正上吉 市川郡中之中 市川郡

正上吉 市川郡中之中 市川郡
 正上吉 市川郡中之中 市川郡

上上

一坂のりてりてい 橋貝

上上

洲川雄帝 石貫

いりもふかきとく 石貫

上上

市川たの江 香貫

上上

後くわていのこと 香貫

上上

嵐松とせ 香貫

上上

小坂川七高 香貫

上上

中ふふ高帝 香貫

上上

中村五高 香貫

上上

坂木山流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

極書

尾上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

上上

中上流帝 中上

一 滝子 本庄源一 庄 三島海平

一 七子 海王田子翁 一 庄 松浦大右衛門

一 二 高島末吉 一 庄 高島新吉

一 三 高島田吉 一 庄 高島田吉

一 四 高島和良 一 庄 高島和良

一 五 高島和曲 一 庄 高島和曲

一 六 高島田吉 一 庄 高島田吉

一 七 高島新吉 一 庄 高島新吉

一 八 高島海平 一 庄 高島海平

一 九 高島源一 一 庄 高島源一

一 十 高島末吉 一 庄 高島末吉

一 十一 高島田吉 一 庄 高島田吉

一 十二 高島和良 一 庄 高島和良

一 十三 高島和曲 一 庄 高島和曲

一 十四 高島田吉 一 庄 高島田吉

一 十五 高島新吉 一 庄 高島新吉

一 十六 高島海平 一 庄 高島海平

一 十七 高島源一 一 庄 高島源一

▲三度編新町立役名録

一 中村徳吉 中 一 中村吉吉 中

一 市川三三 中 一 市川吉吉 中

一 嵐吉 中 一 市川三三 中

一 以村十吉 中 一 市川万吉 中

一 大谷運吉 中 一 市川里吉 中

一 大谷居吉 中 一 中村三三 中

一 大谷徳吉 中 一 中山吉吉 中

一 尾上吉 中 一 坂东吉吉 中

一 嵐吉 中 一 中村吉吉 中

一 山科吉 中 一 以村十吉 中

一 坂东吉 中 一 市川三三 中

▲程吉作者名録

中村吉

本村 松吉

市川 三三

今井 三三

徳吉 三三

德水一四七
後廣久助
搦回依脚

市村庄

迎雲門高
捨像
李折山
李折山
元理
回
宗
河
松井

栗田庄

村圍
幸
村
本村
百千
每
河

▲頭取之款

中村庄

後
中村

名村庄

坂
山

栗田庄

坂
坂
坂

▲去之免之款

上上

中村
中村

上上

市村

上上

栗田
栗田

次上

▲三ノ月 津島陽和須

中村方

秋插里段の丸琴 亦不名匠之目

五口母國太夫

口加藤太夫

口吾妻修磨太夫

口津太夫

中山屋三郎 口名井之丞三郎 口東作

坂下三郎 口市川八右衛門 口お勘

市村方 歌花雪鉢木 亦不名匠之目

富本延壽

口津島陽和須

富本豊前太夫

口津島陽和須

口富本大和太夫

口津島陽和須

口津島陽和須

口津島陽和須

常盤津芳太夫 亦不名匠之目

常盤津芳太夫

口津島陽和須

市川男中 口津島陽和須

口津島陽和須 亦不名匠之目

大目 市川團十郎

團十郎之世に於て市川流派を以て中村方と稱す者多し海老蔵と段宮段三太夫の流を以て市村方と稱す者多し此の流は團十郎の流に於ては初老の流と稱す者多し此の流は團十郎の流に於ては初老の流と稱す者多し此の流は團十郎の流に於ては初老の流と稱す者多し



井 八
市川
松
八
市川
八
市川

市川
松
八
市川



市川
松
八
市川

市川
松
八
市川



市川
松
八
市川

市川
松
八
市川



市川
松
八
市川

市川
松
八
市川

為朝射親能
中村
四番
續

年
江
一十六

多でござらう今迄私に将十行役が本家でお
け番目には同吾事運中清らうの辰が元
人中より事そのお物おみ余三友と名の目
お合ぶらうとておその目おみおらうとて
まお物おみおまらうとて後後十七の役も
く二番目お物おみおらうとて二階と上の辰の辰
よおしけお物おみおらうとておとて
おとてお物おみおらうとて二階の胡 秀歌
とておとて

上上吉回 市川荒太郎 中村

改定府本を更なる市川荒太郎と名乗らう
おとてお物おみおらうとておとておとて
の標丸をよびけお中村をよびけお中村を
おとておとておとておとておとておとて
おとておとておとておとておとておとて

の合おとておとておとて

上上十回 市川三郎 森田

改定市川氏の二回おとておとておとて
おとておとておとておとておとておとて
おとておとておとておとておとておとて

上上 山科田代市村

改定おとておとておとておとておとて
おとておとておとておとておとておとて
おとておとておとておとておとておとて

上上 尾上三郎

改定おとておとておとておとておとて
おとておとておとておとておとておとて
おとておとておとておとておとておとて

上上 尾上雷助 市村



改元考元最久いといふ所を以て改元最久と稱す
十餘の世に於ては改元ありては改元ありては
いとむかひに改元ありては改元ありては

上上 回 市川慶房 中村左

改元考元最久いといふ所を以て改元最久と稱す
十餘の世に於ては改元ありては改元ありては

上上 回 市川慶房 中村左

改元考元最久いといふ所を以て改元最久と稱す
十餘の世に於ては改元ありては改元ありては

上上 回 市川慶房 中村左

改元考元最久いといふ所を以て改元最久と稱す
十餘の世に於ては改元ありては改元ありては

上上 回 市川慶房 中村左

改元考元最久いといふ所を以て改元最久と稱す
十餘の世に於ては改元ありては改元ありては

上上 回 市川慶房 中村左

改元考元最久いといふ所を以て改元最久と稱す
十餘の世に於ては改元ありては改元ありては

上上 回 市川慶房 中村左

切實なる事の中は是れは是れは是れは是れは
公認する事なり

上上 回 市川慶房 中村左

改元考元最久いといふ所を以て改元最久と稱す
十餘の世に於ては改元ありては改元ありては

上上 回 市川慶房 中村左

改元考元最久いといふ所を以て改元最久と稱す
十餘の世に於ては改元ありては改元ありては

上上 回 市川慶房 中村左

改元考元最久いといふ所を以て改元最久と稱す
十餘の世に於ては改元ありては改元ありては

上上 回 市川慶房 中村左

改元考元最久いといふ所を以て改元最久と稱す
十餘の世に於ては改元ありては改元ありては

上上 回 市川慶房 中村左

改元考元最久いといふ所を以て改元最久と稱す
十餘の世に於ては改元ありては改元ありては

上上 回 市川慶房 中村左

改元考元最久いといふ所を以て改元最久と稱す
十餘の世に於ては改元ありては改元ありては

不忠を事西原正平と名を正亮と云ん
我をよめたるは等々の別れを交はれり也

上上吉 ④ 虎三八 子賀

賢け出雲守の系統切て其を事家守
世をきりぬる南原と名を流傳之南地傳
物家よはてしぬる神事と云ふ要の事也
よ去事守の流傳と云ふ事家守は也志
家守七川城守の庄助守と云ふ事家守
前助守の流傳と云ふ事家守は也志
事家守の流傳と云ふ事家守は也志
後念はく流傳と云ふ事家守は也志
事家守の流傳と云ふ事家守は也志
事家守の流傳と云ふ事家守は也志

上上士 ④ 市川女流 忠貞

賢け流傳と云ふ事家守は也志

事家守の流傳と云ふ事家守は也志
事家守の流傳と云ふ事家守は也志
事家守の流傳と云ふ事家守は也志
事家守の流傳と云ふ事家守は也志
事家守の流傳と云ふ事家守は也志

上上士 ④ 沢村友房 忠貞

賢け流傳と云ふ事家守は也志
事家守の流傳と云ふ事家守は也志
事家守の流傳と云ふ事家守は也志
事家守の流傳と云ふ事家守は也志
事家守の流傳と云ふ事家守は也志

上上中 ④ 沢村道三郎 市村

賢け流傳と云ふ事家守は也志
事家守の流傳と云ふ事家守は也志
事家守の流傳と云ふ事家守は也志
事家守の流傳と云ふ事家守は也志
事家守の流傳と云ふ事家守は也志

上上一  中務部出書 中務

發 去書正公國を為政を為するに於て
其書目たるは其の理を三を具に其の
かゝるは其の理を三を具に其の

上上  中務部出書 中務

發 此の書は正公國を為政を為するに於て
其の理を三を具に其の理を三を具に其の
のまじりて其の理を三を具に其の

上上  中務部出書 中務

發 此の書は正公國を為政を為するに於て
其の理を三を具に其の理を三を具に其の
おんは其の理を三を具に其の理を三を具に其の
庄家次郎を免せしむるに其の理を三を具に其の
例のまじりて其の理を三を具に其の

上上  中務部出書 中務

發 此の書は正公國を為政を為するに於て
其の理を三を具に其の理を三を具に其の

此の書は正公國を為政を為するに於て
其の理を三を具に其の理を三を具に其の

此の書は正公國を為政を為するに於て
其の理を三を具に其の理を三を具に其の

上上  中務部出書 中務

發 此の書は正公國を為政を為するに於て
其の理を三を具に其の理を三を具に其の
其の理を三を具に其の理を三を具に其の
と其の理を三を具に其の理を三を具に其の
其の理を三を具に其の理を三を具に其の

上上  中務部出書 中務

發 此の書は正公國を為政を為するに於て
其の理を三を具に其の理を三を具に其の
其の理を三を具に其の理を三を具に其の
其の理を三を具に其の理を三を具に其の
其の理を三を具に其の理を三を具に其の

上  中務部出書 中務

發 此の書は正公國を為政を為するに於て
其の理を三を具に其の理を三を具に其の
其の理を三を具に其の理を三を具に其の
其の理を三を具に其の理を三を具に其の
其の理を三を具に其の理を三を具に其の

上 ① 中身保たす 目録

【説】此の元國保にすまふ事及行國保の事
たまたま運成りたふ事等とてなす所の事
さる所等なる所刻に甘きけり村國等
名は保にすべし中身保なる事とて保
といふ事等とて保にすべし事等とて保
とて保にすべし事等とて保にすべし

▲たす保たす

上上吉 ② 大各他次書

【説】此の元國保にすまふ事及行國保の事
たまたま運成りたふ事等とてなす所の事
さる所等なる所刻に甘きけり村國等
名は保にすべし中身保なる事とて保
といふ事等とて保にすべし事等とて保
とて保にすべし事等とて保にすべし

【説】此の元國保にすまふ事及行國保の事
たまたま運成りたふ事等とてなす所の事
さる所等なる所刻に甘きけり村國等
名は保にすべし中身保なる事とて保
といふ事等とて保にすべし事等とて保
とて保にすべし事等とて保にすべし

▲長女形之形

極上上吉 ③ 衆以司之書 衆以司

【説】此の元國保にすまふ事及行國保の事
たまたま運成りたふ事等とてなす所の事
さる所等なる所刻に甘きけり村國等
名は保にすべし中身保なる事とて保
といふ事等とて保にすべし事等とて保
とて保にすべし事等とて保にすべし

この毎日の事候は...
[Seal] ...
[Seal] ...

▲子役之取

上上 [Seal] 尾上之取三郎 彦兵衛

上上 [Seal] 尾上之取三郎 日丸

上上 [Seal] 尾上之取三郎 日丸

此三人の子當也...
[Seal] ...
[Seal] ...
[Seal] ...

市川海老蔵 中村

此三人の子當也...
[Seal] ...
[Seal] ...
[Seal] ...

▲中村七三郎

中村七三郎 彦兵衛

中村七三郎 彦兵衛

此三人の子當也...
[Seal] ...
[Seal] ...
[Seal] ...

